〔事業実施報告〕

生活福祉学科　企画
キッズハローワークでの介護福祉士体験

報告者：工　藤　雄　行[1)]

1．概要

平成30年10月14日（日曜日）、弘前学院聖愛中学校高等学校を会場に、地域の小学生を対象とした職業体験イベント「キッズハローワーク」が開催された（主催：おしごと体験広場キッズハローワーク実行委員会）。本専攻においても、昨年度に引き続き、介護福祉士の役割や魅力について、小学生に理解を深めてもらうことを目的に、介護福祉士の職業体験ブースを出展した。今回のテーマは「視覚障がい者のお手伝い」である。

2．実施内容

参加者の体験内容は下記のとおりである。(1)から(6)の順で、一人につき約30分のプログラムを体験してもらった。また、参加者には、介護者役のみ体験してもらい、利用者役は、家族同伴の場合には、家族へ依頼した。同伴の家族が不在の際は、スタッフが利用者役を担当した（以下、どちらの場合でも利用者と略す）。

(1) 身支度

介護者役の参加者（以下、介護者）には、まず、体験時のユニフォームとして、こちらで用意したエプロンを装着してもらった。そして、エプロンには、自分の名前を書いた名札をつけてもらった。

(2) チームカンファレンス【実施前】

次にチームカンファレンスとして、介護者と指導係役のスタッフ（以下、指導係）との顔合わせを行い、これから体験してもらう内容について説明をした。「視覚障がい者のお手伝い」の具体的な体験内容は、衣類の着衣介助、歩行介助、食事介助の３種類である。これらの体験を指導係がマンツーマン対応で指導することを介護者に伝えた。

体験参加への同意が得られた利用者に対しては、予め体験内容を説明した後、待機場所にてアイマスクを装着してもらった。

(3) 着衣介助

最初に、介護者から利用者に対し、挨拶及び自己紹介、本日の介助内容の説明をしてもらった。次に介護者に、数種類ある上着の中から、色や柄が異なるもの２種類を選択してもらった。選択した２種類の上着を利用者の前に持参し、それぞれの上着の色や柄について、相手が理解できるよう、できるだけわかりやく説明するよう促し、利用者には、その中から好みのものを一種類選択してもらった。その後、介護者は一部介助にて上着の着衣介助を行った。利用者が一人で行えるところは行ってもらい、手助けが必要だと思う所は介助するよう指導係が支援した。

1）弘前医療福祉大学短期大学部　生活福祉学科（〒036-8102 青森県弘前市小比内3丁目18-1）

(4) 歩行介助

介護者に対し、指導係から、誘導するルートや歩行介助時の姿勢(利用者には介護者の半歩後に立ってもらい、介護者の肩に手をかけてもらう)、歩行時の速度への配慮や、ルートの状況説明の大切さ（段差や曲がり角の有無等)について伝え、実際に歩行介助を行ってもらった。利用者に対しては、事前に白杖の使い方について指導係が説明をし、歩行介助時には実際に使用してもらった。

(5) 食事介助

今回は、ジュースにとろみをつけたものを介助し食べてもらうことを食事介助の内容とした。介護者が利用者にジュースの味（アップルジュースとオレンジジュースの２種類から選択）の好みを聞き、選択した方のジュースにとろみ剤を入れ混和した。その後、とろみのついたジュースを実際に利用者に介助し食べてもらった。利用者に口を開けてもらう声掛けや一口の量、嚥下状態の確認、二口目以降のとろみのついたジュースを口に運ぶタイミング等については、都度指導係が声掛けした。食事介助終了後は、介護者から利用者に対して、本日の介助内容終了の挨拶をしてもらった。

(6) チームカンファレンス【実施後】

最後に、介護者に今回のプログラムに参加しての感想発表等をしてもらい、質問等があった場合は都度指導係が回答し、プログラムを終了した。

３．参加者の状況

当日、本ブースにて介護福祉士の職業体験をした小学生は30名であった。参加者の状況については、別表１の通りである。性別で見ると、男性11名、女性19名であり、女性の方が男性よりも８名多かった。学年別でみると、４年生が９名（30.0％）と一番多く、次いで５年生が６名（20.0％）と多かった。

表１　参加者の状況

実数＝人数　（　）＝％

1. 性別		
男性	女性	
11 (36.7)	19 (63.3)	
2. 学年		
１年生	２年生	３年生
4 (13.3)	4 (13.3)	4 (13.3)
４年生	５年生	６年生
9 (30.0)	6 (20.0)	3 (10.0)

４．参加者の体験後の感想

参加者から体験後に寄せられた感想について、いくつか紹介したい。

- 言葉で伝えたのが難しかった。(１年生男子)。
- コップに入ったジュースに粉を入れると固まって、ジャムのようになったので不思議だった。(３年生女子)
- 色んな仕事をして楽しかった。おばあちゃんにもやってあげたい。(３年生女子)
- 初めて食べ物を食べさせた。(３年生男子)
- なくてはならない難しい仕事だと思った。(４年生女子)
- 将来そのような症状がでるかもしれないので、いい体験だった。(４年生男子)
- 目が見えない人を助けることはとても難しくて、途中でもう辞めたいと思ったけど、終わるととてもすっきりした。(５年生男子)
- 意外と難しくて、お母さんがやっている仕事がとても大変だと思った。(５年生男子)
- 目が見えない人の気持ちになって周りの状況を伝えるのが難しかった。将来介護福祉士になってみたい。(６年生女子)

所　感

今回、2回目のキッズハローワークへの参加となった。参加人数だけてみると、初出展の前回からは10名減となったものの、一人に対して約30分のプログラムをスタッフがマンツーマン対応で実施し、また、一家族で保護者が1名しかおらず、児童が複数参加した場合は、指導係のスタッフの他、利用者役を別のスタッフが務める等の状況もあり、対応できるスタッフの数が足りず、待機者が発生する時間帯もあった。中には、待機者が複数名いたため、時間を空け、わざわざ再度訪問してくれた家族もあり、次回はスタッフの数を充足し、なるべく待機者が発生しないように対処していきたい。

介護福祉士の職業体験は、その役割や魅力について、参加者に理解を深めてもらうという目的で実施した。介護福祉士の役割については、各種プログラムへの参加を通じて、どのようなことを行うのか、個々に理解を深めてもらえたと感じるが、介護福祉士の魅力については、どれだけ参加者に伝えられたのか不透明である。参加者の感想からは介護の「楽しさ」よりも「難しさ」を実感した様子が伝わってくる。一見、参加者は、介護が難しい仕事であると感じたため、今後は敬遠されるのではと心配になる。しかし、介護のリアリティーや難しさに疑似的にではあるが触れることにより、その必要性や意義について参加者は考えるきっかけになったのではないかと推察する。この「考えるきっかけ」づくりが魅力発信に繋がっていくのではないだろうか。即効性はないかもしれないが、今後も、より多くの地域の小学生が、介護について知り、触れ、感じ、考える機会を継続して設けていくことが肝要であると考える。

5．当日の主な役割分担

総括、受付	山口かおる
指導係 （一部、利用者役）	相馬　陽子、福士　尚葵、 工藤　雄行
学生ボランティア （介護福祉専攻1学年）	奈良岡一輝、上林　　愛